



第46号

2019年1月11日

幸樹

こう じゅ



ホームページ 職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

新年明けまして おめでとうございます

一般社団法人幸樹会代表理事 中野 三代子

2019年は己亥（つちのとい）。己という漢字は3本の直線が整然と並んでいる形をしていて、紀（すじ）という意味もあり、草木としては「成長を終えて形が整った」ことを表しているそうです。また亥は十二支の最後で、「葉っぱも花も散ってしまい、種に生命を引き継いだ状態」を表しています。亥の年は、組織では人材育成、財政基盤を固めるなど、内部の充実を心がけると良い年だそうです。不思議なもので、意識し



ていませんでしたが、年末に職員の皆さんに「来年は幸樹会の理念のひとつ＜学ぶことを重視＞を意識し、学びあい、伝え合う一年にしたい。法人設立から5年目に入る来年は、各事業所が、内部充実を図りましょう」と話していました。新年を迎え、その思いを新たにしています。己は自己実現から、人・社会への貢献に変わる時期と言います。亥は木偏を補うと「核」という字になり、内側の芯を意味します。幸樹会の芯をしっかりとさせ、社会貢献へと次のステージに向かえるよう2019年も取り組み、医療・介護・福祉のネットワークづくりと患者・利用者・地域の皆さんとの交流に努めていきます。オープンで家庭的な法人の雰囲気

を大切に、地域の皆さんとともに、平和で安心して暮らし続けられる地域づくりを進めていきます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

柳澤明俊さんに新春インタビュー

「さんしょうを利用する前は、外にいきたくても行けなかった。今は、いろいろ企画をしてくれるから、イベントに参加できる。それが一番の楽しみ」と語る柳澤明俊さん(73歳)にお聞きしました。(大塚かすみ)

自宅はがんばって生きてきた証 妻との思い出の家 ここで最後まで暮らしたい

柳澤さんは、第二次世界大戦終戦間近の当時の中国満州で生まれました。幼少時に日本に引き揚げ長野県で4歳まで過ごし、父親の仕事の関係から神奈川県で子ども時代を過ごしました。結婚と同時に千葉県に転居し、松戸市に住んできました。妻を病気で数年前に亡くされ、現在は一人暮らし。近県に住む弟さんが最も近い親族です。

大学卒業後に広告代理店に就職しましたが、じっくりと作れるような仕事がしたいと転職、企業のPRビデオ等を制作するプロダクションに所属し脚本・演出を行なってきました。作品は多岐にわたり「面白くて、仕事が“趣味”だった」と語ります。病気発症まで、仕事にひたすら邁進する日々でした。

還暦60歳の頃から、柳澤さんに重い病魔が連続して襲ってきました。狭心症、糖尿病、胃潰瘍、腹部動脈瘤、左腎がん、心不全、肺気腫、腎細胞がん・左肺転移、脳視床下部出血・左完全麻痺…、10年余にわたって入退院を繰り返し、手術や化学療法を受け、厳しく辛い闘病生活を送ってきました。

直近の入院時には、主治医から「血液透析が必要な病状で、血管ももろくなっているので入院透析治療をしたほうが良い」と勧められました。しかし、柳澤さんは透析もせずに、在宅療養することを選択しました。



外出が楽しみ

「家は頑張って生きてきた証。妻との思い出の家。ここで一生暮らしたい!」という強い思いがあったからです。

退院後、当初は訪問看護などの訪問系サービスの利用でしたが、柳澤さんの病状や状態を考えると、医療的ケアを重視し訪問看護・訪問介護・通い・泊りが一体的に提供でき、利用者同士の交流がある看護小規模多機能型居宅介護を利用するのが最適だと判断し、さんしょうの利用をお勧めしました。

その結果、昨年4月からさんしょうの利用を開始されました。病状の改善・安定、自立した暮らしがで



水分制限が辛い。みんなが協力してくれらるので頑張れる

きるように、看護・介護スタッフで検討しました。一人の時も安全に暮らせるよう環境を見直し福祉用具を再選定しました。

タンパク質制限・カリウム制限・塩分制限のある食事を楽しめる工夫もしました。「水分制限が一番辛い。一人の時は我慢できなかったよ。みんなが協力してくれたから頑張れた」と、「水分量チェック表」を付けて水分摂取量を守る努力をしてきました。

ひどかった皮膚状態も改善し、腎不全・心不全の検査値の悪化を防いでいます。「この1年半ぐらい、入院しないで過ごせたのがうれしい」と柳澤さん。そして、「さんしょうを利用する前は、外に行きたくても行けなかった。今はいろいろな企画があるから皆さんと一緒に参加できる。それが一番の楽しみ」「車いすの生活は楽だけれど、今は少しでも歩こう、歩きたい!」と思えるようになった」と話す柳澤さんです。

再び、ハワイアンが流れ

メンバーでさんしょうの利用者だった粟沢敏明さんは亡くなれてしまいましたが、仲間みなさんが、12月7日に再



びさんしょうで演奏会をひらいてくれました。利用者の皆さんは大喜び。ありがとうございました。

みんな元気に新年を！

12月18日、第18回地域交流カフェ「クリスマスを楽しみましょう」を開きました。利用者・家族・以前利用されていた方のご家族の皆さん、地域の方々など約60人にご参加いただき、大変盛り上がりしました。

まずは腹ごしらえ…、食にこだわる幸樹会恒例の手作り料理。今回はクリスマスには欠かせない「チキン料理」と「鍋」です。鍋には釣り師さんが釣った鯛やイナダ、他にも鮭や牡蠣なども入り、お出汁が絶妙の豪華海鮮鍋となりました。利用者様からは「お鍋をやったのは久しぶり！」との声も聞かれ、体も心も温まりました。



岡野義喜牧師と聖歌隊のみなさん

その後のグレースホーム聖歌隊のみなさんによる賛美歌は温まった心がさらに癒やされました。ピアノとギターの伴奏に合わせた賛美歌にみなさんうっとり聴き入っていました。岡野義喜牧師さんによる「イエス・キリストは人の苦しみや悲しみを吸収し、喜びや幸せを与える」とのお話は心に染み入るものでした。

今年の手づくり作品は「名前ホルダー」。デコパージュと呼ばれる技法で、紙ナプキンを糊でケースに貼り、その上にレースやビーズなどで装飾したものです。みなさん、迷いながらナプキンの柄やリボンを選び、何をどこに飾り付けようかワイワイ楽しみながら、個性的な世界でひとつしかないホルダーを作られていました。



「名前ホルダー」づくり

そして毎年恒例、幸樹会ハンドベル部による「きよしこの夜」「アメージンググレイス」の演奏。多少の間違いはご愛嬌、みなさんが一緒に歌って盛り上げてくれました。ラストはさんしょう合唱部による「赤鼻のトナカイ」「ジングルベル」の合唱です。軽快なピアノ伴奏に合わせて、みなさん笑顔で元気に歌いきり、「みんなで元気に年を越しましょう！」と誓い、今年最後のカフェを締めくくりました。(岩橋多恵子)

訪問看護

の

こころ

あんず訪問看護ステーション 村里 恵

人工呼吸器などの医療的ケアが必要で、学校に通いたくても、ほかの子どもたちと同じように通えない障害がある子どもたちがいます。そういう子や保護者への支援充実をめざすあおぞら診療所新松戸の厚生労働科学研究「医療的ケア児に対する教育機関における看護ケアに関する研究」に協力して、11/14～12/19の間、週一回水曜日、松戸特別支援学校に通うA君(9歳)の付き添いをさせて頂きました。

医療的ケア児も

安全に学校に通えるよう

A君は、気管切開をしていて、人工呼吸器を使っています。訪問看護の利用者です。10月の終わりごろから、人工呼吸器がうまく合わなくなって、一時的に人工呼吸器を外す時間が増えました。学校では、A君の様子を見て人工呼吸器をつけたり外したりすることが難しく、お母さんがずっと付き添っている状態でした。お母さんはかなり疲労がたまっていて、何とかならないかな？と色々考え、学校に行って、学校の先生や看護師さんと情報交換できないかな？と思っていたところに、ちょうど研究事業があり、学校に行くことができるとても良かったです。

学校では、夕方の訪問時には見ることができないA君の生き生きした姿を見ることができ、感動しました。自立活動の時間で、先生方がとても熱心にマッサージやリハビリをしてくれていて、その努力に頭が下がりました。学校看護師さんは、各教室に配置されているわけではなく、ケアが必要な時に来てくれる仕組みになっていました。

A君は自発呼吸がしっかりしてきて、呼吸器を外してもらえる時間が増えているようです。呼吸器を外すことで身軽になり、体育の授業でエアートランポリンも楽しむことができていました。しかし、疲れてくると、呼吸もお休みしがちになるので、呼吸器をつける必要があります。

小児医療技術の進歩で、気管切開していて痰の吸引が必要、口から食事がとれないので経管栄養で栄養をとるなど医療的ケアが必要な子どもたちが増えています。医療・福祉や教育の面でも一体的に支援ができ、私たち訪問看護師・医療介護関係者と学校の先生・学校看護師がもっと気軽に情報交換でき、お子さんの成長を支えていけると良いなと思います。今は、子どもも障がい者も高齢者もみんな共に生きる時代です。



デンマーク便り...⑫

ラスムッセン 京子

初孫が温水プールの中で誕生！

私事ですが、前月号で書いた学会参加中に初孫が誕生し、お婆ちゃんになりました。

長男エスキルのパートナー・ティナさんは自宅の居間に空気で膨らませた温水プールを設置してその中で出産しました(写真)。



普通はバスタブを使うようですが、エスキルが友人から借りてきました。

助産師さんは3交代で22時間に及ぶ出産を手助けして下さいました。エスキルは医師ですが、妹アニカ(長女)と共にお湯係として付き添いました。51cm、3100gのデンマークの標準より少し小さめの男の子が誕生、母子ともに健康、3週間目には750g体重が増え、腹ばいになると頭を持ち上げ顔の向きを変えろという動作が出来るようになりました。新生児の頭の大きさを考えると信じられないような背筋力です。目覚ましい運動能力の進歩に驚いているところです。

デンマークでは、妊娠かしらと思うと、先ずはかかりつけ医(家庭医)の所で妊娠検査。陽性であれば早速受胎の時期を推察して、出産時期の予測をし、妊娠ノート(出産までのカルテ)が作成されます。妊娠にかかわる医師や助産師による定期健診、妊産婦の出産時期に合わせて案内をだして、夫婦で参加する出産準備体操指導を行います。医師の診察はこの後、12週目に放射線科医が超音波診断でダウン症候群等のスクリーニング検査を実施、家庭医の診察が25・32週目に行われます。助産師の診察は5回ほど妊娠中に行われます。胎児の成長や産婦の尿検査、血圧検査、血液検査の結果によって医師と連絡を取ったり、保健師診察が頻繁になったり、入院になったりします。

スムーズに妊娠が進めば助産師と相談し、どこでどういう風に出産するかを選択します。自宅でも出産することも可能で、多くの女性が自宅出産を希望します。

青森からりんご！🍏🍏🍏

松戸で長年焼き芋屋を営み、昨年春ふるさと弘前に帰られた成田富作さんから、今年も真っ赤なりんごが届きました。さっそく利用者・職員で新鮮で蜜が詰まっている甘いりんごをご馳走になりました。成田さん、本当にありがとうございました。



第14回さんしょう運営推進会議の報告

12月18日の運営推進会議には、東部包括支援センターの青木様、たんぼぼの会鈴木様、三和病院MSWの藤巻様、小多機わいわい豊夢の阿佐美様にご参加いただき、法人からは中野代表理事、大塚看護師、岡本が出席し、運営状況等をご報告しました。「先日の事例検討会での発表を聞いて、急な体調不良などでも臨機応変に対応しているのが印象的」「利用者さん同士の繋がりができて、一つのコミュニティができていると感じている」等の評価するご意見をいただきました。(岡本健吾)

新入職員の紹介

薬剤師 井上 由紀子

12月に入職しまだ不慣れな事が多くありますが、相手の立場に立って、わかりやすく丁寧な対応を心掛けていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。



八柱学習会

●前回報告12月21日(金)。助言者 武井幸穂氏「認知症ケアについて」…絵本『だいじょうぶだよーぼくのおばあちゃんー』(さく・長谷川和夫、え・池田げんえい)を読みながら…。報告者・浅尾いずみ(ゆず所長・介護福祉士)。参加者13人、認知症ケア全体をおさらいできるような、よくまとまった報告でした。テレビで放映された富士宮市の地域ぐるみの認知症ケアのとりくみに感動し、現地まで見学に行ったという85歳の鈴木道子さんの行動力に称賛と驚きの声。

▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日」)

●1月18日(金)、18:30~、
「医療的ケア児について」報告・中野三代子(代表理事)
場所:幸樹会館2階会議室《参加自由》

職員募集! 非営利・働きがいある職場 薬剤師・看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ:本部中野まで、☎047-701-7550

今月の屋上太陽光発電量は、

450KW(不調!?)

幸樹会館電力使用量 6552KW 自給率 6.87%

